

感染状況・医療提供体制の分析(7月28日公表)

【岡山県専門家有志】

詳細

(東京都統括コメント参照)



区分	モニタリング項目 ①、②は公表の前週(月～日)の合計 ③～⑤は公表の週の水曜日時点	前回の数値 (7月21日公表)	現在の数値 (7月28日公表)	前回との比較	分析コメント	
感染状況	① 定点当たり患者報告数 (注:報告者数は、県内84定点医療機関において、1週間に診断した患者数。定点当たり数は、1医療機関当たりの、1週間での平均患者数。)	報告数	780人	1062人	→	レベル3. 感染が拡大しつつあり警戒が必要 定点当たり患者報告数は 12.64人 と増加。ヘルパンギーナなど他の感染症も依然多い。全国的に増加傾向が続く。沖縄県では患者数が減少傾向となるも、依然医療ひっ迫も起きている。5類移行後も、高齢者が重症化しやすいというウイルスの特徴に変わりはない。今後も人流の増加が見込まれる。体調不良時は外出しない、高齢者や基礎疾患のある方にはうつさないようにするといった心がけや、状況に応じたマスクの適正使用が必要。
		定点当たり数	9.29人	12.64人	→	
		報告数に占める60歳以上の割合	18.3%	19.2%	→	
	② 保健所別定点当たり患者報告数 (注:定点医療機関は、地域により患者数や患者の年齢構成にばらつきがあり、地域別の単純比較は多少の問題があるが、同じ地域で時系列の変動を見て、流行の推移を見るには有用)	岡山市保健所	4.73人	7.27人	→	
		倉敷市保健所	13.50人	19.38人	→	
		備前保健所	8.00人	10.20人	→	
		備中保健所	10.83人	19.58人	→	
		備北保健所	11.33人	8.33人	↘	
真庭保健所	8.33人	11.33人	→			
美作保健所	11.70人	12.00人	→			
医療提供体制	③ 入院患者数	245人	336人	→	レベル2. 体制逼迫の兆候があると思われる	
	④ 確保病床における入院割合	18.7%	25.3%	→	県全体としては医療提供体制は安定しているが、局所的には入院患者が急増している医療施設もあり、通常医療への逼迫の兆候がある。	
	⑤ 重症者数	1人	2人	→		